第14回 小谷あゆみの

ようこそ！にっぽん畜産列島

みんなニコニコ鶏はスリムにヘルシー経営「愛鶏園」

創業95年という採卵養鶏の老舗、「株式会社愛鶏園」（本社：神奈川県横浜市）は、埼玉県深谷市と茨城県小美玉市に農場を持ち、200万羽の鶏から毎日160万個の卵を生産しています。「すごい数ですね」と思わず感想をもらすと、代表取締役の齋藤大天さんは、「毎日160万人の人が食べているかと思うと、誇りと同時に責任もあると、よく社員の方にも話すんですよ」と語ってくれました。

なるほど、160万個というと数字にしか思えませんが、それは例えば160万人の朝ごはんの目玉焼きや卵かけごはん、オムレツになっているのだと想像すると、仕事にぐっと張り合いと緊張感が生まれます。育雛・育成・成鶏農場合わせて７ヵ所に200人の社員を率いる愛鶏園は、「生産者としての誇りと責任、安心、まごころ」そして玉子は「鶏からの贈り物である」ことを、経営理念に掲げています。

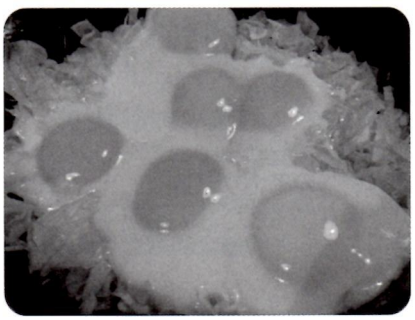
齋藤さんいわく、「最近は卵も機能性やら栄養強化などと言われますが、本当は卵自体が栄養豊かないい食べものなんですよね。鶏のお腹から産まれた、まるい命が卵なんだということを、消費者もわかって食べる方がいいと思うんです。」

そんな思いから、齋藤さんは神奈川県養鶏連と「ぼくらのひよこプロジェクト」を立ち上げ、「ひよこのこと、たまごのこと、いのちのこと」を伝える絵本や動画を作って発信しています。

愛鶏園の卵の特徴は、大き過ぎないことです。鶏をメタボにしないようにエサを管理すると、卵は若干小さめですが、鶏に負担がかからずエサも少量で済み、鶏ふんまで減るそうです。無理をさせずに無駄を省き、鶏も経営もスリム化でヘルシー経営を目指します。

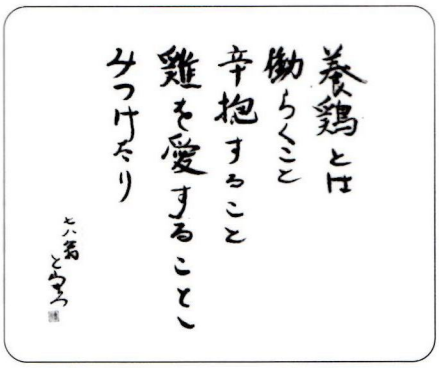
気になるのはコロナの影響ですが、販売先がスーパー５割、外食３割、マヨネーズなど

神奈川県養鶏連との「ぼくらのひよこプロジェクト」で絵本やロゴマークを作成



毎日平均3.5個の卵を食べ続ける齋藤社長。名付けて「巣ごもりたまご」

野菜農家とのコラボでたまごのピクルス商品化



創業者・齋藤虎松さんの言葉

「愛鶏園」創業90年時に、虎松さんへのリスペクトを込めて写真をパッケージに

の加工２割と分散していたため、比較的融通が効いたそうです。卵価安定基金や生産調整などの仕組みもあり、相場は低迷していますが、どうにか販売は１割減にとどまりました。

深刻なのは従業員問題です。200人のうち60人がインドネシアの技能実習生で、３年の任期を終えた実習生が帰国しても、新しい人が入って来られません。ただ、今年10人卒業したうちどうにか４人はあと２年残ってくれることになりました。

技能実習生の制度には３段階ありますが、愛鶏園は４～５年目の「技能実習3号」実習生も受け入れられる優良企業に認定されているため、実習生の同意があれば、２年延長できるのです。

2009年から、これまで受け入れたインドネシア実習生は実に100人に上ります。彼らが故郷へ戻ってからも、よい条件で職に就けるよう日本語検定の取得も推奨しています。

いつか卒業生のうち、自国で養鶏場を開きたいと言うやる気のある人が出てきてほしいと、希望も語ってくれました。

飼料は養鶏業仲間６社と協同してオリジナルのエサを飼料メーカーに「委託配合」してもらっています。合わせると300万羽分になり、飼料メーカーともフェアに交渉できるそうです。よい関係が築けると、今度は飼料メーカーからエコフィードや新しい副原料の情報も入り、お互いWinWinの関係だそうです。

自社の利益だけでなく、ステークホルダーやパートナーシップを大切にするサステイナブル経営の陰には、大変な時期がありました。齋藤さんが経営を引き継いだのは、2006年。茨城の農場に鳥インフルエンザが発生し、80万羽の殺処分を余儀なくされたことを発端に、会社が経営危機に陥りました。いわばどん底を経験したからこそ、いまの愛鶏園があると言います。

創業者・齋藤虎松さんの教えは、「養鶏とは、働くこと、辛抱すること、鶏を愛すること」。とにかく育雛からひとつずつ責任と誇りをもって取り組もうと、有機循環型農業を目指した新しい経営になったのです。

齋藤さんは、毎日平均3.5個の卵を食べています。仲間たちと推進するたまごを1日２個食べようという「たまごニコニコ大作戦！」の一環で、今年の元日から卵消費の記録をはじめ、SNSにアップしています。９ヵ月で975個、おかげですこぶる健康だそうです。

リーダー自ら実践しなければ、周りは動かせない。そんな思いが込められたエッグチャレンジの話を聞いていると、こちらまでまあるいたまごが食べたくなってきました。

小谷 あゆみ　フリーアナウンサー／農業ジャーナリスト

2004年から畜産番組リポーター。全国の牧場を取材。また野菜をつくる「ベジアナ」として都市と農村のフェアな関係、農の多様な価値を掲げて取材、講演活動。NHKEテレ「ハートネットTV介護百人一首」出演中。農林水産省 食料農業農村政策審議会・畜産部会臨時委員ほか